

マーケットの動き（2021年6月7日～6月11日）

先週の為替市場は、米ドルは対円で上昇（円安）しました。

10日に公開された米国CPI（消費者物価指数）はインフレ加速を浮き彫りにする内容であったものの、物価上昇は一時的との見方から米国長期金利が低下したことを受けて、日米の金利差縮小を意識したドル売りが優勢となりました。しかしながら、週末にかけて米国長期金利が下げ止まり上昇に転じたことで、ドルが買戻される展開となりました。

ユーロは、対円・対米ドルともに下落しました。

投資環境見通し（2021年6月）

円に対して、米ドル、ユーロともに緩やかに上昇

米ドル：米国では、ISM景況感指数が製造業、非製造業ともに高水準を維持し、ワクチン接種の加速などを背景に景気回復期待が高まりやすい状況下、長期金利に上昇圧力はかかりやすく、米ドルは円に対して緩やかに上昇するとみています。

ユーロ：ユーロ圏では引き続き製造業PMIは上昇基調を維持していることに加え、ワクチン接種進展による社会・経済活動の正常化が意識されることから、ユーロは円に対して緩やかな上昇基調で推移するとみています。

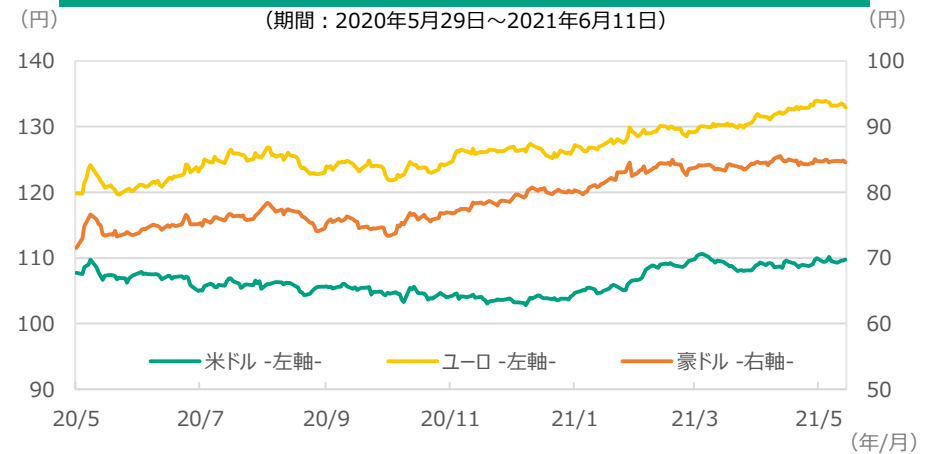
	6月11日	変動幅（円）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	109.77	0.25	1.28	5.82	3.12
ユーロ/円	132.93	▲0.28	1.00	7.08	11.56

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

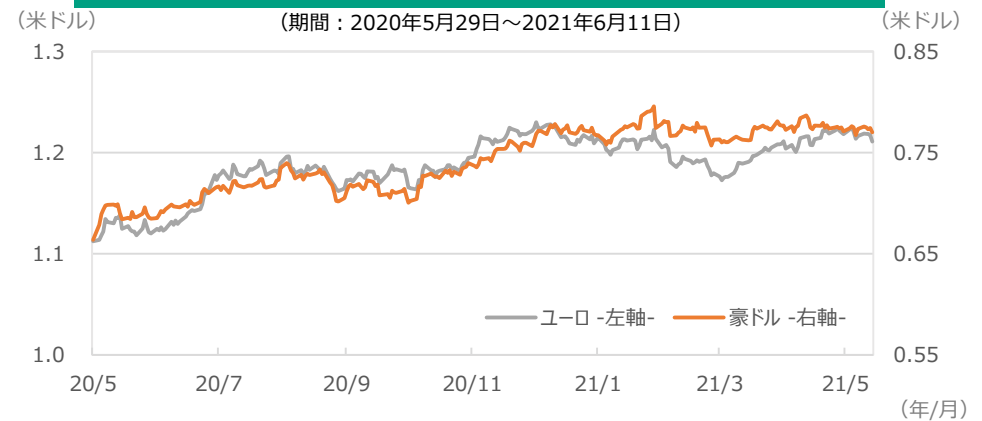
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202106_outlook.pdf

為替レートの推移（対日本円）



為替レートの推移（対米ドル）



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>